

04 春闘推進ニュース

39

全労連ニュース速報 NO.755

2004/04/02

全国労働組合総連合
TEL:03-5842-5611
FAX:03-5842-5620

許すな！ 雇用・賃金・年金破壊 守ろう！ 平和と憲法

2日の国会情勢

衆議院厚生労働委員会空転 年金法案説明、野党が拒否 午後委員会を与党単独で開催し、政府案の趣旨説明を強行

後半国会の焦点の年金制度改革関連法案をめぐり、衆議院厚生労働委員会は2日午前、坂口厚生労働大臣による提案理由説明を行い、委員会審議に入る予定でしたが、民主党・共産党などが出席を拒否したため、開会できませんでした。

しかし午後、委員長職権で委員会を開催し、法案の趣旨説明を強行しました。野党は欠席。

来週は、6日に理事懇談会を開催し、7日の委員会の対応について協議する予定です。民主党は、9日に対案を提出し、衆議院の本会議開催を要求し民主党野対案の趣旨説明を行ないたいと表明しています。そのため、本格的審議は9日以降になることも予測されています。

7日は、国会座り込み行動日です。当日委員会が開催されていれば、傍聴行動を実施します。

「県民の会」を結成し、宣伝・行動に全力 老人クラブ、訪問など反響広がる——広島県労連

年金改悪に反対する運動が広がっています。マスコミも国民審議に歩調を合わせるように問題を報じ、最も重要な政策争点になっています。一部マスコミでは、7月に予定されている参議院選挙を想定して「年金問題の採決は先送り」と報じはじめたほどです。

広島県労連では、この間共同行動を積み上げてきた六団体（県労連・社保協、民意連、高齢者運動連絡会、新婦人、全解連）に年金者組合県本部に参加してもらい「年金制度の改悪に反対する県民の会」を結成し、取り組みを進めてきました。

「県民の会」では、広島市内の老人クラブをはじめ、諸団体への要請を行い、「きみはる号」（県労連宣伝カー）による市内宣伝を展開するとともに、3月19日には、県民集会も開催しました。

要請を行った老人クラブから「署名用紙が足りないから送ってほしい」といった電話が寄せられるなど、反響の広がっています。社保協は県内1000ヶ所学習運動を提起し取り組みを進めています。（広島県労連 No170号 04.3.20付より転載）

労使共同で年金改悪阻止

労使で年金学習会開く——全印総連・東京地連

3月5日に東京地連では、年金問題について、東京・文京区民センターで労使共同の学習会を開きました。

全体で60人の参加者でしたが、そのうち8人が経営側からの参加者でした。今国会に提案されている年金制度政府案は、長期の不況で苦しんでいる中小企業経営者と労働者の双方にとって、問題の多い改革案であるという労使の共通認識からこの共同の学習会を開くことになりました。

当日の学習会では、まず、小原東京地連委員長より共同学習会の開催趣旨について説明がされ、ついで、年金実務センター代表の公文昭夫氏を講師に招き「年金問題と今後の対応」というテーマで講演をしてもらいました。講演内容は、現在の年金制度の仕組みや財源問題、そして政府案の問題点などを詳しく説明した上で、今度の年金改悪は労働者、自営業者、中小企業経営者にとって共通の課題であるというものでした。

学習会の最後に、東京地連では4月15日の年金ストをはじめとした年金制度改悪阻止の運動を、この04春闘で、活発に取り組んでいくこと、また、労使共同でおこなえる取り組みについては積極的に取り組みたいとの、服部書記長の閉会あいさつでしめくくりました。(全印総連「印刷出版労働者」206号 04. 3. 25付より転載)

年金大改悪を許さない

スト権を確立してたたかいます——福祉保育労

東海地本は、17回臨時大会でスト権を確立しました。年金問題や公私格差是正問題など生活を脅かす、すべての事柄に対し、機敏に対応する構えです。利用者や経営側の理解や支持が不可欠であり、組合自体頼りにされる存在になっていくことがますます求められるでしょう。04職場闘争は、その意味で、組合の存在をさらに大きくしていく活動です。各職場の要求が、みんなの願いに膨らむよう学習・討議を深めていきます。(福祉のなかま 3月号 第165号より転載)

10日、釧路労連は100人規模の団地宣伝署名行動

北海道の釧路労連は4月10日、団地集会所に100人規模の組合員が集合し、団地内に年金改悪のひどさを宣伝し、個別訪問署名行動を準備しています。ハンドマイク隊を地域にくりだし、15日のスト成功目指す各地のとりくみが始まりました。